



2019年 人権一口講座



「かけしウィーク」

ひとつのこぼでけんかして ひとつのこぼでなかなかおり
 ひとつのこぼで頭が下がり ひとつのこぼで心が痛む
 ひとつのこぼで楽しく笑い ひとつのこぼで泣かされる
 ひとつのこぼはそれぞれに ひとつの心を持っている
 きれいなこぼはきれいな心 やさしいこぼはやさしい心
 ひとつのこぼを大切に ひとつのこぼを美しく

これは私が好きな「北原白秋」の詩です。言葉は自分を取り巻く環境の一つだと私は考えています。その「言語環境」によって身についた言葉を使う場面によっては、その人の人格さえも予想されます。

私は今年初めて「かけしウィーク」の取組をふれあい文化センターで担当しました。そこで近隣の小中学生の作文や作品・標語に書いてある事柄について、じっくり読む機会に恵まれました。多くの作品は、きつと担任の先生方の指導の手があったかと思えますが、それにもまして自分の思いや考えを言葉にすることができる子供たちの姿に感動を覚えました。

日本が戦争の真ただ中にあつた時は自分の思いや願いさえも言葉にできなかつた時代でした。現在の日本は平和な世界と言つてもよいでしょう。それを壊すきっかけにも言葉はなりえるのです。言葉は「責任」があります。日々の暮らしの中での時には「ふっ」と考えてみてください。考えて使つていけるかな、と。

かけしウィークの作品一例

○ありがとう
 楽しかつたよ
 また明日
 ○友達に
 おはようと言われ
 私の顔に笑顔がさいた

「春竹小 五年生」

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけし」一月号より)

短いメッセージ「また明日」その一言が自分を
 今日から明日に つなげてくれる

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー- 桜木中学校2年 太田峻介さんの作品より